

「オノマトペ+する」の語彙的意味とアスペクト性の研究

伊東, 真美

<https://doi.org/10.15017/1522386>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（芸術工学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名 : 伊東 真美

論 文 名 : 「オノマトペ+する」の語彙的意味とアスペクト性の研究

区 分 : 乙

論 文 内 容 の 要 旨

オノマトペの統語機能として、副詞用法に次いで多いのが、機能動詞「する」と結びつく動詞用法である。「オノマトペ+する」は、従属節および主節において、アスペクト、テンス、ヴォイス、ムードと結びついて用いられることがある。このような文法カテゴリーの中でも、動きの時間的局面を表すアスペクトは動詞と密接な関わりを持ち、日本語においても研究が盛んに行われてきた。しかし、「オノマトペ+する」は十分にその研究対象に含まれているとは言えない。このような背景から、本研究では、「する」と結びついて動詞になるオノマトペの語彙的意味を特定し、その語彙的意味ごとに「オノマトペ+する」の主文末におけるアスペクト性を明らかにすることを目的とする。

まず、主文末においてどのようなオノマトペが「する」と結びつきやすいかを調べるために『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ:Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)を用い、オノマトペ+「させ/され/する/し」で検索し、「する」と結びつきやすいオノマトペを特定し、内的状態を表すか、シテイル形で動き・状態・性質を表すか、「させる」と結びつくかといった観点から(1)「感情・感覚表現」(2)「動き・状態」(3)『「させる」と結びつくもの」(4)「性質」という4つのカテゴリーに分けた。さらに、それらを語彙的意味素性(直接感覚、継続性、動作性、意志性)の違いによって11のカテゴリーに分類した。この11のカテゴリーごとに「オノマトペ+する」の「語彙的アスペクト性」を解明した。

「語彙的アスペクト性」を「形態論的アスペクト」と「語彙的アスペクト」と定義する。「形態論的アスペクト」は、オノマトペに「する/している/した/していた」が結びついたときの<完成>か<継続>、<非過去>か<過去>、<動き>か<状態>というアスペクトの基本的な対立である。「感情・感覚」を表すものは、3つに分けられる。一つ目は、「いらいらする」のようにスル形で感情表出表現となり、シテイル形で状態の継続を表すものである。二つ目は、「びっくりした」のようにシタ形で直接的な感情表出表現となり、シテイル形で、変化結果の継続を表すものである。三つ目は、「かっとする」のように、スル形でもシタ形でも直接的な感情表出表現とならず、瞬時の感情の変化結果が継続しないものである。「動き・状態」を表すものは、その動作性の度合いと意志性の有無によって、スル形で「未来」を表すか「恒常的表現」になるか、シテイル形で「動きの継続」を表すか、「状態」を表すかが異なっている。オノマトペが「させる」と結びついた場合、主体が自身の身体部分を動かす再帰用法と他動詞的に対象を変化させる用法がある。再帰用法は、継続性があり、動作性が高いオノマトペが多く、シテイル形で動きの継続を表す。他動詞的な用法は、シテイル形と結びついて用例が非常に少なく、シタ形や「させられる」など、使用される形式がある程度限定されている。性格や容姿などの「性質」を表すものは、シテイル形で属性を表す。

「語彙的アスペクト」は、「オノマトペ+する」の「直前」「開始」「継続」「終了」「完了」といった時間的性質である。上記のような大きな枠組みを設けた上で、オノマトペと個別のアスペクチュアリティの表現形式である複合動詞（「しはじめる」「しおわる」「しつづける」）、テ形+補助動詞（「してくる」「していく」「してある」「してしまう」）、「形式名詞+だ」（「するところだ」、「しているところだ」、「したところだ」）、その他の形式（「しようとする」）の結びつきを BCCWJ で調べた。また、日本語母語話者 10 名を対象にしたアンケート調査を行い、その結果と実際の使用状況とに整合性があるかを確認した。

個別のアスペクチュアリティとの結びつきを問題にした理由は、たとえば「継続」を表すアスペクチュアリティの表現形式は複数あるが、それぞれの特徴や前接する動詞の条件が異なっており、一括りにしてその結びつきを判断できないためである。本研究では、オノマトペの語彙的意味素性を基盤にした基準で、アスペクチュアリティの表現形式が前接する動詞に求める条件を表し、オノマトペの語彙的意味と整合性がある場合、この表現形式と結びつきやすいと判断した。

BCCWJ による調査結果によると、オノマトペと「してしまう」「してくる」「しはじめる」が結びついている用例は非常に多いが、「しつつある」「したばかりだ」「しおわる」「してある」と結びついている用例はない。BCCWJ とアンケート調査の結果を分析し、「オノマトペ+する」とアスペクチュアリティの表現形式の結びつきについて、結論部分で体系的に表にまとめて示した。

「オノマトペ+する」は、スル形で未来の動きを表し、シテイル形で現在の動きの継続を表すというアスペクト対立があるものから、述語部分ではシテイル形で使用され、シタ形で名詞修飾用法となる形容詞的なものまで存在する。すなわち、「オノマトペ+する」は、具体的な動きを表す典型的な動作動詞と状態動詞の間に連続的に位置するものであり、オノマトペの継続性、動作性の程度、意志性、内的状態といった性質によって、「する」が結びついたときのアスペクト性を含めた統語的特徴が異なっている。